

# なぜ45年、教師を続ける

## ことができたのか

羽生市立南中学校

佐藤 俊次



### 人づき合いの下手な私が 教師になった

新任で今の羽生南中に赴任して以来、今年で45年目になる。中学3年生の社会科20時間を担当している。運動会の当日、屋上から『尊王愛国』の垂れ幕が掲げられる学校だった。2年目は、すべての全校集会が成立しなかった。体罰と威圧による教育が破綻し、力関係が逆転した学校は、もろい。たびたび、集団で狙われた。毎日「生きる」ことに必死だった。私は、3年から2年の担任になり、来年は、また3年だから修学旅行の下見に行けと言われて行ったら、2年目で、卒業式の日に異動を命じられた。私みたいな若造のために不当人事とた

かってくれたのは、組合の先輩だった。非行が吹き荒れた学校で、生徒指導主任を引き受け、教職員集団の先頭にたち、臨時の生徒総会でいじめ暴力追放宣言を採択させた先輩だった。私は、組合に加入した。あれから44年経った。

### こんな学校だったらいいなあ

私が卒業した中学は、ほとんど規則らしい規則がなかった。自治を重んじ、文化祭をはじめ、「根っここの会」という生徒会執行部がほぼすべての行事を運営し、教師の姿の記憶はない。週一回の全校朝会しか来ない校長先生は、いつも専門の生物学の話をした。何一つ「がんばれ」と言わない「校

長先生」のアカデミズムが気に入った。「制服の自由化」を緊急臨時生徒総会で提案されたとき、教職員を代表して「校長先生」が大学からやってきて、いつも通りの口調で「残念ながらこの場で決定することはできない。教職員に預からせてもらえないか」との発言を妙に感心して聞いていた。そうか、これが学校なのだ。

### 羽生駅から熊谷駅まで 本はよだれだらけ、 目が覚めたら『寄居く寄居く』？

新任の私は、何もわからないので、先輩たちに図々しく相談した。何回も何回も授業を見せてもらった。大西忠治氏の「核のいる学級」を読んできていと言われて一晩で2冊読んだ。教師の引き回しによる学級ではなく、やがてリーダー（核）が集団で学級を創っていく学級のつくり方を示した本だった。シヨックだった。また、別な先輩は、授業について、「毎時間、指導案を創れ」と言ってくれた。一晩一冊読んだが、プリント一枚できず悲惨な授業。しかし。優れた教材に出会えた。なるほど。いつもいつもからかいながら、励まし続けてくれた先輩たちがいた。

山ほどの失敗。その果てに獲得したわず

# みなにわたって教職員に

特集

かばかりの教訓と仲間（相棒かな）がいたからやってこられたことを声を大にして言いたい。

## 学習、実験、失敗、レポート提出、分析、さらなる実践

木刀を持って3年生が教室に乱入してきたとき、担任した子供たちは、ひるまず、「出て行ってください」と叫んだ。クラスで、校内たばこ拾いをして、900本近い吸い殻を見つけてであろうことか模造紙に書いて廊下に貼ってしまったから。私は「なめるようにかわいがる」ことを覚えた。

生活指導的な集団づくりにはまっていた私は、やがて指導が「管理」に墮していった生徒たちから「NO！」を突き付けられたことがある。その時、隣で、いつも全くながうこまやかな一人一人の生徒を大切にされた学級実践をする女性教師がいた。いつもけんかしていた。しかし、足りないもの、いつか管理に墮してしまっていたことを指摘してくれた。教壇に塩をまかれたときも、それには何一つ触れずに1時間もかけて、自転車で私の借家にはげましにきてくれた子どもたちに救ってもらった。わらをもつかむ思いで、学校の飲み会を顔出ししたただけで、その足であゆみ出版の全国学習会が

あり、伊豆まででかけ、そして三上満氏に出会った。こんな教師がいるのかと。涙が止まらなかった。こんな教師になりたいと思った。満さんの本は、全部買って読んだ。

## 授業

どちらかと言えば我が道を行く勝手な私が、やってこられたのは。ひとえにこの相棒たちの存在のおかげ。小学校でバンクし、担任を2年連続で病休に入らせたこともたちが入ってきたとき、さっそく、一人の担任が5月に病休に入った。しかし。私たちは、ひるまず、担任もし、実践を続けた。歓迎ミニ運動会も、水泳大会も、バースデー会も。事件があるからこそ、一歩も引かない。「学校は楽しいところだ。アカデミックなところだ」小学校で担任を病休に追い込んだ男子は、変わった。自立支援施設から通ってきた彼は。みんなに愛され、社会で憲法を学んで変わった。彼は、最後の「佐藤先生の卒業式」のときに「俊次さん、3年間ありがとう」と憲法103条すべてを暗唱して卒業していった。

「最後の授業」をみんなで用意した。音楽教師のベートーヴェン「月光」は圧巻だった。

そうだ、息苦しい学校ではなく、『楽しい学校』を創りたかったんだ

ぜひ、45年間、教師をしてください、みなさん。試行錯誤しながら、ときにどうしようと思うときがいっぱいありましたけれど。そんなとき、となりのおじさん、おばさんに話を聞いてもらってください。いつまでも、何かしてやろうと考えてるおじさんたちがそこにいます。

ねえ、皆さん。「教え子を再び戦場に送らない」ために、民主主義を守り育て、平和国家の主権者を育てるために、共にがんばろうではありませんか。

# 声をあげることで、 職場・学校は必ず変わる！

東松山特別支援学校

小沢 道夫



## 教師になる夢をあきらめる？

先日、教育実習をした青年が「学校現場がこんなに大変だとは思わなかった」と言って、教員を目指すことをあきらめたと言いました。授業・部活動・会議等で早朝から夜までほとんど休みなく働き、土日も部活動指導で働く先輩の教師の姿を見て、これではとても仕事が続かないと感じたそうです。

いま、「学校の教職員の働き方を見て、学校はブラックだー」と言われています。確かに、学校現場は異常な状況になっています。でも、それは教職員の責任でしょうか。学校は本来、子どもたちが成長する、希望あふれるところです。「ブラック」な

のは、教育にお金をかけず、子どもたちや教職員に競争と管理をすすめてきた国や文科省・県教委です。そのところをしつかり見ることが大切です。

## この学校の 組合の火を消さない！

私はこの4月、組合の役員を終えて、再任用として学校現場にもどりました。私が働いている学校はかつて組合員もたくさんいた職場だったのですが、その後、組合員が次々と退職していきました。それでも、普段、職員室にいない栄養士の組合員がこの学校の組合の火を長年守ってきました。そして、その栄養士の方が退職することになり、組合の火を消すわけにはいかないと

思い、私がこの学校にきました。

4月1日、校長に挨拶し、組合のパンフレットなどを新転任者の人に渡し、そのまま職員会議。全教職員の前で組合の挨拶をしました。組合役員をしていた私でも、すぐドキドキしました。そして、学校現場の状況はわかつてはいたけど、こんなに大変なのかと毎日、実感しています。ペーパーレスの職場なので、組合のチラシや新聞がなかなか配れませんが、校長と話し、更衣室前に「分会掲示板」を設置し、組合の新聞やチラシを職員連絡のパソコンを通して、連絡できるようにしました。前任者の組合の火を消さない努力を引き継いで、少しずつですが組合の姿がみんなに見えるとりくみをはじめました。

## 教室が足りない！ 先生が足りない！

私の学校は130名規模の学校に約180人の子どもたちが通っています。当然、子どもたちの教室が足りず、特別教室や会議室を教室にしたり、1教室をパーティションで区切り2教室にしたりして、なんとか子どもたちを受け入れています。職員室も小・中・高等部と3つに分かれています。また、埼玉県などがすすめる「教育D

X」の流れの中、教職員間の連絡や職員会議、保護者の連絡（保護者便り）もほとんどをSNSで行っています。他の特別支援学校同様、教職員も足りず、毎朝「今日は〇〇先生がお休みのため、応援お願いします」が日常茶飯事の状態です。学校は若い教職員とベテラン教職員が多く、臨時教職員が25%もいます。

## 職場・学校を変えるために、声をあげることからはじめよう！

簡単には職場や学校は変わらないかもしれないけれど、子どもたちや教職員の声や願いをもとに動きはじめることが大切です。本校でも月に一回ずつですが、組合員が集まる会議をもつようになりました。先日の会議では、「本校は駐車場が足りず、子どもたちの中庭も駐車場にしている。そこは元来、駐車場ではないため、雨が降ると地面はぐちゃぐちゃ。中には車がスタックして出せなくなってしまうこともある。そのほとんどの人が子育てや介護等で学校にぎりぎりに出勤する人だ」という声を聞きました。分会会議で、まずはこの問題を解決するために校長と話し合おうということになりました。先日、校長と話す中で、校長も理解し、その問題解決のために少しず

つですが、いま一歩ずつ動きはじめています。

## 学校だけでは解決しない問題もある！

私は小学校の教師をめざし、採用試験を経て小学校の教員に登載されました。しかし、勤務校は特別支援学校でした。その当時、特別支援学校の採用試験はなく、小中高の簿登載者から特別支援学校にまわるということが当たり前。採用の時、「3年間我慢すれば、小学校に異動できる」と県教委が説明するほど、特別支援教育を軽視していたと思います。私はすぐに組合に入り、本来、特別支援教育をめざす教職員を採用できる制度をつくりたいと思い、組合みんなで声をあげ、交渉を何年も続けました。ついに2007年「特別選考」で17名ですが、特別支援学校の採用試験を実施させることができました。その後、毎年のようにその数を増やし、今では小中高と同じように「一般選考」で200名をこえる採用者が出て、その専門性から多くの教職員が埼玉の特別支援教育を担っています。

また、教室・学校不足の問題でも、保護者と共に声をあげることで、上尾かしのき・所沢おおぞら・深谷はばたき・草加かがや

き、入間わかき・戸田かけはしや岩槻はるかぜ特別支援学校などの学校を開校することができました。まだまだ、教室・学校不足は深刻な状況ですが、声をあげることをあきらめません。

## 新しく教職員になられたみなさん

どんな職場・学校も声をあげ、行動すれば、必ず変わります。そのことに確信をもって、一緒に声をあげていく仲間を見つけたことからはじめましょう。はじめは愚痴や悩みからですが、そのことが大切だと思えます。そして、仲間をつくり、声をあげ、職場・学校を変えることが、私たち自身の成長につながります。一緒に思いを感じ、一緒に動いてくれる仲間や組合員を増やしながらか、子どもたちも教職員もいきいきとした学校をつくるために、ともに頑張りましょう。

（埼玉教東松山特別支援学校分会会長）

# 新しく教職員になられた方へ

## 「繋がり」を大切に

埼玉県立新座高等学校 養護教諭

出水 香織



「連休中はゆっくり休めましたか？」GWの連休明け、新任の先生や、他校から異動で来られた先生方に必ずかける言葉です。新しく教職員になられた方は、4月から緊張と不安と期待であつという間に1か月が過ぎていったと思います。ようやく慣れてきて、疲れがドツと出てくるころだと思えます。

### 「繋がり」を大切に

私は養護教諭なので、学校では1人職ですが、新任の時から職場の先輩方に声をかけていただき、周りの人たちに沢山助けられて、ここまで続けられてきています。養護教諭同士でも、同期や近隣の養護教諭の先輩、後輩たちと情報交換をしたり、研修

会に参加したりして積極的にコミュニケーションを取っています。コロナの影響で、研修会が中止になり、オンライン研修会が多くなり、直接対面で話すきっかけが減ってしまい、ストレスを溜めている教職員も多く見えてきました。新任の先生が、「大学時代はオンラインでほとんど友達ができなくて淋しい思いをした」と言っているのもし聞きました。コロナ禍は世界中が苦しい時期でしたが、だからこそ、人との繋がりがいかに大事なのかを実感できた体験でもありました。今こそ、「繋がり」を大切に、生徒たちにも人との繋がりが得られる心の豊かさを育んでいきたいと思っています。さて、「繋がり」に関連した職場での私の養護教諭実践を少し紹介したいと思います。

私は、漫画を描くのが趣味で、毎月保健だよりに4コマ漫画を2つ掲載しています。保健だよりを作成する仕事は私にとって仕事の中で楽しい時間でもあります。また、保健だよりを通して、教職員の方を巻き込んで、仲を深めるきっかけにしています(資料①突撃!!健康インタビュー、4コマ漫画)。

また、生徒に対しては、保健室で来室対応をするだけでなく、年度末に2年生を対象に、養護教諭による性教育を実施しています。性教育は「心が生きる」と書いて「性」と読むので、単純に妊娠・中絶や性感染症の知識を教えればよいというものではありません。パートナーとの関係性など、それも、人との繋がりがや付き合ひ方を見直したりするきっかけづくりでもあるのです。大人も生徒も、心が生き生きしているか、ということは人生の中で重要なことだと思えます(資料②性教育授業の様子)。

### 自分の体と心を大事に

養護教諭の私から、新しく教職員になられた方へぜひ伝えたいと思うメッセージは、ずばり、「自分の体と心を大事にすること」です。自分に余裕がないと、生徒との関係も悪くなります。教職員が疲弊している姿を生徒たちは敏感に感じ取り、生徒たちが

資料①

## 突撃!!健康インタビュー!

私も作ってみました!

どの先生の個性が出る!面白い記事もいっぱいあるから、ぜひ読んでほしい!私がどの先生の新たひ一面を知りたいように、生体も新たひ面を知られる。どわわっかっけで生体と教員の新たひコミュニケーションの場にもなるかも……?!

所北の先生に自身の健康法を紹介してもらおうコーナーです!!第1回目は、2年7組担任、地産・公民の先生にインタビューして原稿を寄せていただきました)

**「私の健康の秘訣は、スバリ!!黒糖(くろこうじ)です!by 先生」**

平成6年に、花粉症デビューしてしまいました。目の腫れ・くしゃみ・鼻つまりがひどい重症患者でした。しかし、ラシズンは、ほとんど症状が出ず、20年ぶりに夏場ではない香を味わっています。それは、黒糖のおかげだと思っています。

現代の日本は昔に比べ、衛生環境が良い、病予防や寄生虫などに感染する機会が激減しました。その結果、日本人は昔に比べて抵抗力が弱まり、昔よりもアレルギー性疾患が増えて増加しました。(「衛生仮説」と呼ばれている)

目の人たちは体内に、寄生虫を飼っていることが多かったとのこと。寄生虫がいると、寄生虫の出す、ごく弱い毒に反応して、体内で、非特異的IgE(イムノグラムE)がつくられます。この物質が、アレルギー物質をつくるスイッチを切ってしまうのでアレルギーが出なかったのです。

現代人は非常に衛生的な環境で育っているため、体内で非特異的IgEがつくられなくなってしまうため、花粉などの異物が体内に侵入すると、それに対して、特異的IgEがつくられ、これがアレルギー物質をつく



資料②



不安になります。自分自身の休みの日を確保し、自分のリフレッシュ時間をしっかりと取ることに!「時間が無い」とよく嘆いている声も聞こえますが、「時間は作るもの」です。無理なことを要求されたり、まだ慣れない仕事で覚えられず悩むことも多いでしょう。仕事を他の人にもふることは、まだ難しいと思いますが、1人で抱え込まずに、

困ったら周りに相談してみましょう。愚痴を言ったり、弱音を吐くことは一見ネガティブな印象を受けますが決してマイナスイメージではありません。

また、ストレスを溜めないことに加え、睡眠・食事・適度な運動は、人間の心と体を支える上でとても大事なことです。生徒に「生活リズムを正そう」と言っている教

員が、昼ごはんも食べずに夜遅くまでずっと職場にいる…矛盾していると思いませんか? そうはいっても現場は超多忙化でなかなか厳しい現状です。その中で、自分のペーシングをつかみ、どんどん周りとの繋がりが弱っていく、どうか健康第一で仕事も生き生きとやっていきましょう。